

2011年度 東山梨教育協議会研究の概要

研究推進委員長 梶原 貴

I はじめに

東山梨教育協議会は、東山梨地域全体の教育振興を願って、1964年(昭和39年)に校長会・教頭会・教連の三者が、県教委、各地教委の協力により設立され、47年が経過しようとしている。これまでの活動の中で私たちは「平和を守り、真実を貫く民主教育の確立」のスローガンのもと、平和で民主的な社会を作るための教育研究・実践が重要であることを確認し、とりくんできた。また、管理職、教諭、専門職員が協同して組織研究を進め、東山梨地域の学校教育の向上、教職員個人の質的な向上、教職員相互の強固なネットワークの構築をはかり、今に至っている。

さて2011年3月11日に起こった東日本大震災は、多くの尊い犠牲を出しながら、私たちに何を投げかけているのだろうか。エネルギー問題のみならず、生活全般に関わってライフスタイルそのものの見直しが必要なくらい、根底から考え方を問い直す機会にもなった。だから私たちは、好むと好まざるとに関わらず、多様な意見を持ち寄って30年、50年、100年先を見越した議論をしていく必要がある。そこで将来を背負っていく子ども達が自由に議論するとき、その土台になるのは、言うまでもなく正しい知識ではないだろうか。だから私たちは学校教育の中で「正しい知識」を発達段階に応じて確実に伝え、この困難を乗り越えて、1日も早く、主体的で心豊かな生活を取り戻していけるように、支援していかなければならない。今年度も各校の校内研や教育研究部会の中でも、「正しい知識をいかに分かりやすく工夫して教えていくのか」「子ども達の豊かな学びをいかに保証していくのか」など実り多い研究になったのではないかと思う。

一方、被災地にボランティアで活動した仲間の先生方のお話を伺うと、まだまだ充分な環境とは言えない中でも、子ども達は「学ぶ」ことで心を落ち着けていくのだそうだ。一見、衣食足りてはじめて学習に向かえるものと考えていたが、家族や友達を失い、大切な家や身の回りのものを失っても、学ぶことに活路を見だし、学べる尊さを噛みしめながら学習する姿に心を打たれたと言う。このことから分かることは、心の傷はすぐに癒えることはないが、「学ぶ」という行為は、絶望を希望に変えていく力がある」ということではないだろうか。

これは、この地域に暮らす子ども達にも言えるのではないだろうか。個々の置かれた状況に違いはあれ、自分や地域・社会を豊かにするために、今出来ることに全力で打ち込む。勉強、部活、児童会・生徒会活動に精一杯努力する、そんな東山梨が大切にしてきた子ども達の姿そのものではないだろうか。私たち教育に携わる者は、いづどこに置かれても、常に子ども達に寄り添い、未来のために今できることを一步一步、実践していくしかないと改めて考えさせられた。被災地の現状から、逆に私たちが教えられた気がしてならない。

II 研究の推進について

1 研究の目標

基本目標 「平和を守り真実を貫く民主教育の確立」
「国民の教育権の確立」

統一テーマ 「人間性豊かな子どもの育成とその学習を保障する教育活動の探究」

2 研究推進の基本的方針

(1)教協47年目の歴史的な重みや意義を重視し、東山梨の抱える今日的な教育課題解決のため

の研究を推進する。

- (2)教育課程（カリキュラム）の自主創造的な編成を強化推進する。
- (3)各学校の校内研究と教協研究との有機的結び付きとその充実を図る。
- (4)保護者・地域住民との連携を強化する。
- (5)組織研究の意義を理解し充実発展させるために、積極的な参加意識の高揚と組織的参加体制の確立を図る。
- (6)平和・人権・環境教育を積極的に推進し、生命の尊さや平和の大切さの意識高揚を図る。

3 研究の組織づくり

研究の基底は校内研究にあるとの認識に立ち、課題の本質に迫り、解決の方法・内容を考えたり、専門的力量を高める教育研究部会と、同じ地域に勤めるものが課題を共有し、連携をはかりながらその解決策を探るブロック交流研究会、さらに特別委員会を設け教協研究を推進した。以下、具体的に掲げる。

(1) 教育研究部会

共通テーマ；「人間性豊かな子どもの育成と教科教育課程の自主創造的な編成をめざし、教育の本質を実践的に追究する。」

	部会名	部長	学校名	テーマ
1	日本語教育 小学校	岡村 太郎	日下部小	豊かな表現力の育成 ～伝えあう力を高める指導の研究～
	中学校	山下 栄子	笛川中	豊かな表現力の育成 ～伝えあう力を高める指導の研究～
2	外国語教育	秋山 悦子	山梨南中	基礎学力をつけるための指導工夫
3	社会科教育 小学校	中村 賢司	塩山北小	科学的社会認識を育てる授業研究
	中学校	立川 慶樹	勝沼中	科学的社会認識を育てる授業研究 ～身近な資料を用いた授業研究～
4	算数・ 数学科教育 算 数	小林みずほ	後屋敷小	子どもとつくる楽しい授業の創造 ～楽しく学び、高め合う算数学習をめざして～
	数 学	大芝 笑美	山梨南中	わかる授業の工夫と授業実践 ～基礎学力の定着と考える力の育成～
5	理科教育 小学校	山宮 将仁	後屋敷小	わかる理科授業の創造 ～新学習指導要領に基づくカリキュラムの研究～
	中学校	萩原 修	山梨南中	わかる理科授業の創造 ～楽しく学び 自然を豊かにとらえる理科授業をどのように進めるか
6	音楽科教育	筒井美佐子	山梨南中	わたしの音楽 みんなで音楽 ～音楽を形づくっている要素を感受し自ら広げる音楽の世界～
7	美術・図工科教育	古屋 ゆか	東雲小	一人一人の力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか
8	技術科教育	齋藤 和裕	山梨北中	ものづくりを通して生きる力を育てる指導研究 ～ 生物育成に関する題材の工夫
9	家庭科教育	深澤 麻美	山梨北中	感じとり体験して生きる力が育つ授業づくり
10	保健体育科教育 (小学校)	向山 敢	日川小	教材の本質をふまえた体育指導のあり方 ～体づくり運動を通して～
11	保健体育科教育 (中学校)	樋 泉生	山梨南中	体育分野における授業の効果的な指導法 －指導形態や場の工夫－
12	保健教育	古屋 睦子	勝沼小	「児童・生徒が意欲的にとりくめる健康教育をめざして」

				～健康教育の効果的な指導に役立つ教材教具づくり～
13	生活科教育	田邊 珠紀	玉宮小	子どもが生き生きと学ぶ生活科 ～気づきを深めるための活動や支援のあり方～
14	自治的諸活動	金井 京子	大藤小	一人ひとりの自立をめざした学級づくり
15	生活指導	堀内 美紀	牧一小	すべての子どもへの心理的、教育的援助のあり方
16	障害児教育	雨宮 正倫	塩山南小	一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方 ～自立をふまえて(どの子ども共に生き共に育つ)～
17	福祉教育	藤波 貴	塩山南小	小学校における福祉教育のあり方をさぐる
18	食教育	風間美智子	塩山北小	食教育を考える ～子どもたちのより良い食習慣づくり～
19	平和・人権教育と国際連帯	三森 公仁	塩山南小	平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして
20	環境教育	加藤 友子	東雲小	「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方 ～身近な環境や自然に対し主体的に関わることのできる子どもの育成～
21	情報社会とデジタル文化	滝島 正彦	大和小	情報活用能力を高める研究
22	進路教育	加山 大洋	塩山北中	一人ひとりにあった生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか ～小・中における授業実践を通して～
23	隣街・地域との連携	村田 裕美	後屋敷小	開かれた学校づくりをめざして
24	教育条件整備	川野比呂子	大藤小	豊かな教育を子どもたちに
25	カリキュラムづくりと総学習	鈴木 英仁	奥野田小	豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成 ～総合学習の可能性を今、社会へ発信しよう～
26	教育評価	小林 光三	加納岩小	生きる力を育む評価のあり方

(2) ブロック交流研究部会

共通テーマ；「地域が抱える教育課題を共有し・解決に向けた交流を行い、同一地域の小中連携や小中の系統的な教育のあり方を追究する。」

・内容について

ブロック名	ブロック長	ブロックテーマ
山梨支会	山梨北ブロック 廣瀬 明子 岩手小	○小中の連携を深めることにより、山梨北ブロックの児童・生徒の指導に生かす
	山梨南ブロック 長嶋 明美 山梨南中	○情報交換及び地域の学習を通して、小中4校の望ましい連携のあり方を探る
	笛川ブロック 竹川由美子 三富小	○小・中学校の連携を深め、地域の様子や子どもたちの実態を知り、指導に生かす
甲州支会	塩山ブロック 岩森真由美 塩山北小	○小中学校の交流を図る中で、地域の様子や子どもたちの様子を知り、連携して塩山中学校区の子どもたちを育てていこう
	塩山北ブロック 三森 明美 神金小	○小中の連携をはかり塩山北中学校区の子どもたちを育てていこう
	松里ブロック 雨宮 由縁 井尻小	○同じ地域に学ぶ子どもたちの教育のために小・中・地域の交流と連携を深めよう
	勝沼ブロック 高添 勉 菱山小	○小中学校の連携をはかり、同じ地域に生活する児童・生徒に対する系統的な教育のあり方を考える
大和ブロック	筒井 弘 大和小	○小中の連携を深め、児童生徒の教育課題についてともに考えよう

(3) 特別委員会

- ア 教育環境研究特別委員会 (委員長 雨宮政文 委員…校長会・教頭会・教連・事務職)
- イ 児童生徒連絡協議会 (会長 山梨南中学校生徒会会長 飯嶋奏人 顧問教員 武井善史)

4 部会運営

本年度は、教育研究部会26部会、ブロック交流研究会8部会の成立をみた。教育研究部会は年間10回、ブロック交流研究会は年間3回設定し研究活動を行った。年間計画等、きちんとした見通しの上になつての研究活動を更に推進していくことが重要である。

5 研究日と研究集会

毎週水曜日を研究日とし、地区教協研究日以外は校内研究にあててが、この確保の努力が不十分の面もある。厳に校内行事等入れないで研究時間を確保したい。春季・秋季研究集会は32校の教職員が一堂に会し開催された。(冬季は天候不順のため部長校開催)

6 研究推進地区

甲州支会を研究推進地区とし、塩山中学校を会場に各種教研活動が行われた。

7 教育講演会

8月5日(火) 山梨市 花かげホール

講師 わだつみ平和文庫代表 医師 中村はるね先生

演題 「平和と学問」～わだつみ平和文庫が語りかけるもの～

III 今後の課題

新学習指導要領の本格実施にむけての対応と同時に、特別支援、食教育、キャリア教育など時代のニーズにあった教育活動を進めていく必要に迫られている。このような状況にあつて私たちは、幅広い視野を持ち互いの力量を高めるべく、研究、実践をしてきた。教育問題が多岐にわたる今日、目の前の子どもたちにとって本当に必要とされるものは何かをもう一度見つめ直し、組織研究の意義を会員各自が自覚する中で東山教育がさらに充実、発展するよう努めていきたい。

〈東山梨教育協議会役員〉

役職名	氏名
会長	三枝 修(勝沼中)
副会長	津野浩二(松里小) 伊藤淳司(塩山南小)
事務局	梶原 貴(塩山中) [研究推進委員長・事務局長] 那須丈彦(山梨南中) [事務局次長]
	三枝 修(勝沼中) 武川富喜雄(牧丘一小) 樋口美根夫(八幡小) 成澤宗克(松里小) 丸山久美(玉宮小) 津野浩二(松里小) 八巻登(塩山南小) 小林誠一(山梨南中) 廣瀬文武(塩山北小) 中村宏樹(日下部小) 伊藤淳司(塩山南小) 中村英彦(松里小) 梶原 貴(塩山中) 雨宮 正(塩山北小) 那須丈彦(山梨南中)
会計	雨宮 正(塩山北小)
会誌監査	武川富喜雄(牧丘一小) 榊原俊二(山梨小) 古屋雅章(加納岩小)